

<「阪神甲子園球場」と同等のプレー環境の創出について>

- 甲子園球場と仕様を同様にするという点は、夢を追う子供たちの後押しにつながる。
- 甲子園球場の土は、日本一水はけがよいとも聞いている。整備や管理との関係もあるだろうが、土の仕様も甲子園球場と同等になるよう考慮することを望みたい。

<選手ファーストでの施設整備について>

- 選手ファーストの観点から、待機スペースや会議室、更衣室はもちろん、室内練習場に至るまで、室内環境の快適さを考慮していただきたい。
- 年に数度の大観客のイベントのためよりも、日常の球場使用者のことを優先して考えて欲しい。

<誰もが楽しく観戦できる環境整備について>

- 内野フェンスを低く設定するという点について、安全面を第一に配慮せねばならないが、選手との一体感や臨場感を産み出すことは容易に想像でき、観客に対する面からも「夢と希望を抱く」というコンセプトに通じており、実現して欲しい。

<環境負荷軽減・ユニバーサルデザインについて>

- 現県立球場は、ユニバーサルデザインの観点が見え、十分に配慮され設計されることを強く求める。
- 今般の令和6年能登半島地震を踏まえ、緊急避難場所として必要な機能の具体例を追記してもよいのではないか。

<賑わいの創出について>

- 外野席を芝とし、公園緑地とつなげることは是非とも実現して欲しい。子供たちのみならず老若男女のすべての県民が、親近感を持てる球場になる。
- 多くの方が快適に過ごせる空間になることを楽しみにしている。

<その他>

- プロ野球公式戦の誘致を見据え、県の財政事情や人口減少も考慮したとしても、観客席は2万2千席より、もう少し多くてもよいのではないか。
- 「プロ野球開催可能」が分かる言葉もビジョンの中に入れ、県民全体が希望する野球場である印象を強くした方がよい。